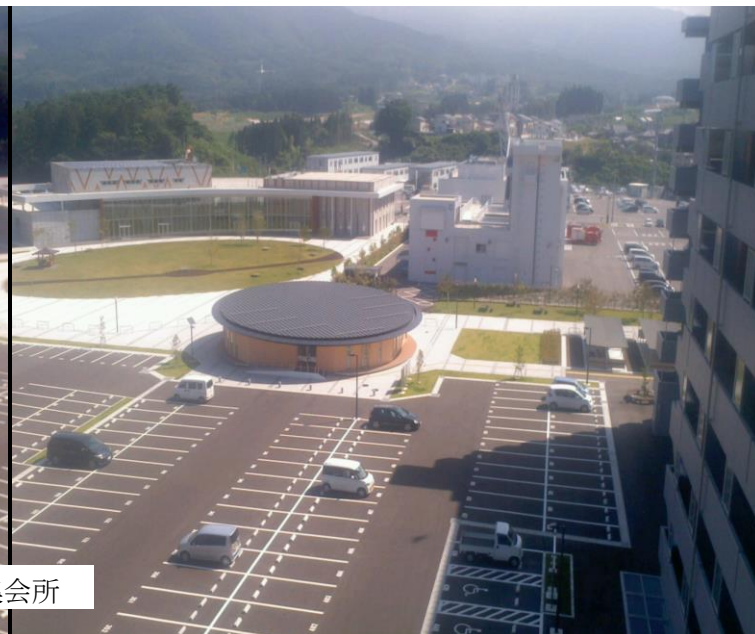


災害公営住宅・栃ヶ沢団地（県営）

225戸が入居へ

ひきつづき随時募集



栃ヶ沢団地全景。南棟9階から撮影。真ん中の丸い黒屋根が集会所

「これでやっと安心」の声も

8月1日、災害公営住宅・栃ヶ沢団地への引越し、入居がはじまっています。この団地には、高田町や竹駒町の出身者が多く、225戸が入居予定です。

さっそく引越作業、家財の運搬も終えた人は、「竹駒の仮設からやっと移れた。やっと落ち着いた生活になる」と喜んでいました。

団地は9階建てと8階建て。市内で最大戸数の301室ですが、入居率は約75%。岩手県では随時募集を始めています。

熊本地震被災地・西原村で――

下矢作のヒマワリの タネッコを

藤倉市議も参加

ヒマワリが縁で熊本地震の被災地との連来篤広がっています。大震災直後、ガレキだらけとなった下矢作地区の農地の復旧で、福岡県から支援にきた原健吾さんたちの福岡応援団が被災農地にヒマワリの種を持ち込み、植えることを提案し激励。荒れた田んぼが圧巻のヒマワリ畑になりました。



大坪涼子後援会が日帰りツアー 7/24 バス2台で須川温泉へ

7月24日、恒例の大坪涼子後援会の日帰り研修会が今年は須川温泉ツアーとして行われました。朝7時30分出発、バス2台に47人が参加。曇りでガスのなかでしたが、須川温泉に近づくと青空も。温泉ではお湯につかり散策などでくつろいで交流。往復バスの中では、大坪議員と藤倉議員がそれぞれ議会での取組や参院選挙結果などが報告され、要望や意見もよせられました。また、ゲームや帰りの道の駅・巖美溪での買い物など賑やかな交流に一日になりました。

その時収穫してあった種を、福岡応援団は今度は熊本で支援のお返しとして熊本県の西原村で「陸前高田のタネッコ」をまくイベントを企画。七月三十一日、約百人が集まり、荷原村西田安弘副村長もあいさつ。下矢作地区の代表から、「がんばっぺし」と同じ意味の「がまだせ西原」の松の木看板やメッセージが届けられました。ヒマワリの種は国道筋三反と高原の畑3haに蒔かれ、被災地同士の新たな交流が広がりました。藤倉市議も参加、陸前高田に支援に来た人たちとも交流し陸前高田の状況を報告しました。